



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第25号

目次

- 松阪高校で学長講演
- 医学部の大学院が部局化
- 「学長と学生との懇談会」が開催される
- 三重大学国際シンポジウム
- 齋宮歴史博物館と人文学部間で共同調査研究協定に調印

- 第2回天津師範大学短期語学研修&文化交流
- コンケン大学が訪問
- ICカードに関する講演会(東京大学のICカード導入経緯及び現状)

お知らせ

- ・ 総合情報処理センターから
- ・ 生命科学研究支援センターから
- ・ 広報室から

松阪高校で学長講演

3月22日、豊田学長は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、本学と連携協力中の松阪高校で講演をしました。国立大学法人の学長が高校で講演する例は全国でも珍しく、今回の講演は、「現代社会が求めている資質、大学が取り組んでいること」を語ってほしいと松阪高校からの要望を受けて実現しました。テーマは、「大学はいま？」と題し、大学の紹介、大学の役割、法人化に伴う大学の改革等、高校生に分かり易い講演内容で1,2年生762人は、熱心に聴き入っていました。

医学部の大学院が部局化

医学部では4月1日付けで、大学院を部局とする機構改革を行いました。これは、教員の身分や管理運営の主体を学部から大学院に移す大学院大学化の措置をとったもので、部局長は大学院医学系研究科長で医学部長を兼任し、医学科教員の身分は大学院教員となり大学院教育が主務で学部教育を兼任することになりました。大学院（博士課程）を1専攻（生命医科学専攻）とし、6大講座55教育研究分野からなる体制としました。大学院カリキュラムを充実させ、学生のニーズに応えるコースとプログラムを準備すると共に、医学の急速な進歩に対応出来る柔軟な研究組織体制を整えました。これによって若い人材を確保し、研究が飛躍的に進展することを目指しております。また、学部教育についても更に改革を進め充実した内容にしていく予定です。

「学長と学生との懇談会」が開催される



3月23日に、三重大学の教育と学生生活全般に関する意見交換をテーマに、豊田学長と学生との懇談会が開かれました。呼びかけに応じて参加した学生は、人文学部、教育学部、工学部、生物資源学部、留学生センターから、学部生6名、留学生3名、大学院生1名の計10名でした。当日は、学長のほか、教育担当、研究担当、情報・国際交流担当の3名の副学長が出席し、授業の内容、時間割や履修、カリキュラム、機器の利用などの教育研究環境や、留学生の生活条件などの福利関係について3時間にわたりの丁寧な懇談が行われました。なお詳細は、近日中にホームページに掲載されます。

三重大学国際シンポジウム

3月30日、三翠小ホールにてPBL-チュートリアル教育（問題基盤型学習）に関する国際シンポジウムが、南イリノイ大学Ann Kelson助教授を招聘し、開催されました。PBL-チュートリアル教育とは受動的講義によらない小グループでの能動的学習を誘導できる教育法で、全世界的に注目されています。今回の事業は、文部科学省の平成16年度教育GP（代表者：津田司教授・医学・医療教育開発推進センター長）に採択されたことを受けて、医学部のPBL-チュートリアルを更に進化させること、および、全学的にPBL-チュートリアル教育を展開する基礎を作ることを目的としたものです。全学からの参加者約50名は、小グループでのPBL-チュートリアル教育法と、さらにそれを大教室で展開する方法について理解することができ、大変有意義な国際シンポジウムとなりました。



南イリノイ大学
Ann Kelson助教授

齋宮歴史博物館と人文学部間で共同調査研究協定に調印



齋宮歴史博物館吉村裕之館長

井口靖人文学部長

人文学部（学部長：井口靖教授）は、国史跡齋宮跡に関する調査・研究を共同で行うため、3月23日人文学部に齋宮歴史博物館（吉村裕之館長）を迎え「共同調査研究にかかる協定書」に調印しました。国史跡齋宮跡は、天皇に代わり伊勢神宮に仕えた皇女・女王の日常的な居住地やこれを維持するための役所の大規模な遺跡です。同遺跡は、三重県多気郡明和町にあり、1982年に国の史跡指定を受けています。今後共同で発掘調査を行い、その成果を公表していく予定です。

第2回天津師範大学短期語学研修&文化交流

3月6日-20日にかけての15日間、標記語学研修（団長：別府直苗講師・教育学部、参加者：学生19名）が実施されました。午前中は中国語学習、午後は文化交流（太極拳・中華料理・書法等の実践と中国人学生との交流）を中心に、北京小旅行（万里の長城・故宮博物院）や市内参観（古文化街・鼓楼・天津博物館）等も行われ、新しい中国の文化と古い中国の歴史を実感できたと、参加学生には大好評でした。文化交流のほとんどの場面で中国語が使用され、起床から就寝までたっぷり中国語の世界に浸ることができ、15日間とはいえ、学生は大いに実力をつけたと思われます。



コンケン大学が訪問

3月23日-24日、大学間協定校であるタイ・コンケン大学の医学部長一行が本学を訪問されました。一行は更新時期が近づいている大学間協定の継続について、豊田学長、亀岡副学長（国際交流室長）と懇談をし、今後も継続していくことが両者間で合意されました。また、両医学部間においても、医学医療分野で一層の交流を進めることが確認されました。



ICカードに関する講演会〔東京大学のICカード導入経緯及び現状〕



3月24日、附属図書館視聴覚室において、東京大学総務部情報課の香田健二専門職員を招いて「東京大学におけるICカードの取り組み、その後」についての講演会が開催されました。講演では、平成13年からの取り組みからクレジット会社との提携に至った経過、提供できたサービスと今後の展望等、様々な課題等について講演され、学内コンセンサスを得るための苦労が多いとのことでした。本学でもICカード導入検討委員会が設置され、専門家を交えて検討されることになったこともあり、講演後の質疑応答が活発に行われ有意義な講演会となりました。

お知らせ

総合情報処理センターから

■インターネット回線の高速化

三重大学から情報を発信するための学術情報ネットワーク(SINET)との接続が、4月より100Mbpsに増速されました。同時に、すでに100Mbps(ベストエフォート)で接続しているZTV経由のインターネット回線と、マルチホーム化を行いました。これによって、さほどストレスを感じさせることなく、2つの回線を利用して、大規模研究データの転送や、WWWなどを使っている情報発信ができるようになりました。

■レンタルシステムの更新

5年ぶりにレンタルシステムの更新があり、教育研究システムが刷新されました。これに伴い、授業を効率よく補完し、その効果を高めるためのeラーニングシステム（Campusmate/CourseNavig）の運用が開始されます。

■サイトライセンスソフトウェアにSASを追加

統計解析、データ処理のための統合化ソフトウェア SAS をサイトライセンスソフトウェアに追加しました。研究室でもご利用いただけます。詳細は、webページ(<http://www.cc.mie-u.ac.jp/>)をご参照ください。

生命科学支援センターからーゲノム研究会（仮）発足

大学院修士課程以上の学生さん（修士、博士）を対象として、「ゲノム研究会（仮）」を開催します。この研究会はサロンの形でインフォーマルな研究会を目指し、ゲノムを取り巻く様々な話題について議論、勉強しようというもので、文系理系を問いません。医、生物資源に限らず、工、人文、教育の大学院生の方もふるってご参加ください。（詳しくは、http://blog.goo.ne.jp/mtakemura_2005）

広報室から

名古屋を始め、東海地区の人にも、「もっと三重大学を知ってもらおう!!」と、市営地下鉄栄駅構内2ヶ所に看板広告を掲出しました。看板は、年数回入れ替える予定で、本学の積極的な情報発信の取組みの1つとして活用していきます。



投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾